

当院ではこのような検査も行っています

トモシンセシスガイド下乳腺バイオプシー検査 (マンモトーム生検)

組織検査の1つで、触診や超音波検査では分からない石灰化などの病変に対して行います。トモシンセシスを利用したマンモグラフィで病変を確認しながら針を刺し、針の側面にある穴から組織を吸引しながら検体を採取します。

うつ伏せで行う装置の新規導入により、以前の当院の検査に比べ、石灰化の同定が速く、検査時間が10分以上短縮しています。針が患者様から見えづらく、精神的・身体的負担も少なくなりました。

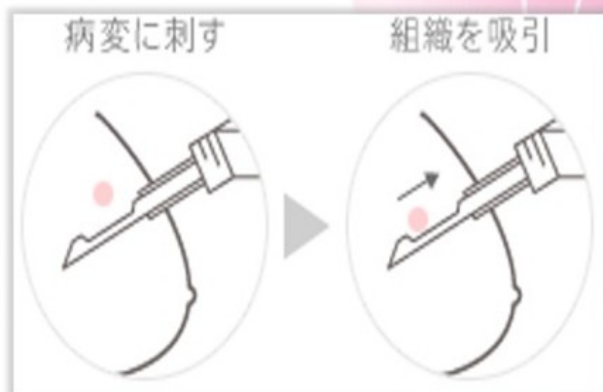
検査時には、お好みの音楽をかけていただくなどしており、リラックスした状態で検査を受けていただけます。



バイオプシー装置



生検針



当院ではこのような検査も行っています

トモシンセシスガイド下乳腺バイオプシー検査 (マンモトーム生検)

検査の手順

- ① 検査着に着替えていただきます
- ② 検査ベッドの上うつ伏せで寝ていただきます
- ③ 乳房を挟んで撮影します
(検査終了まで乳房を挟んだままになります)
- ④ 採取する石灰化を決めて、同部位に消毒と局所麻酔をします
- ⑤ 麻酔で石灰化の位置がズレていないか、再度撮影します
- ⑥ 少し(5mmほど) 皮膚を切開し、針を進めます
(麻酔が効いているので痛みはありません)
- ⑦ 採取する石灰化と針の位置関係を確認するため、今一度撮影します
- ⑧ 良ければ、目的部位まで針を進め、どの方向を採取するかを決めるための撮影をします
- ⑨ 組織を採取します
(針は差したまま360度回転するので、一回の穿刺で数本の組織を採取することが可能です)
- ⑩ 組織の中に石灰化があるのを確認したら、場合によりマークを留置します
(マークはごく小さなもので、検査で石灰化を取り切ってしまったときなどのために、「ここに石灰化があったよ」とわかるようにするためのものです。)
- ⑪ 止血して終了になります

以上のように、撮影・確認を繰り返しながら検査を行います

